

本市議会常任委員会は、選挙によつて多数の新議員を迎え、且つ全面的に担任部門も変更を見ましたので、之を機会に将来行政運営に更に一層の努力を致す事を期し、各委員会別にそれ／＼先進都市の視察を致しました。百聞は一見にしかずとか、誠を得る所が多かつた事と存じます。今各委員長から視察報告が提出されましたので順次掲載いたします。

(議会事務局)

### 水道委員会

視察月日 三月七、八日  
委員 井出、山仲、志村、漆畑  
課長 西尾  
視察地 岐阜市

#### 視察概要

**岐阜市上水道事業**  
沿 革  
岐阜市は清流長良川河畔に発達した都邑で、古來地下水は豊富且佳良であつたが、大正初期迄は水道について論議された事もなかつたが、年と共に戸口稠密となるに従ひ各戸井水も汚染の度を加え且水量も減少するに至つた。大正十年頃識者の間に水道の必要が唱導せらるゝと共に市民の間にも又水道の実現を要する声高きを追うて強くなり、水道創設の機運漸く熟し来るに至つた。

#### 第二期工事

第一期工事の成績を現した市の北半部の住民の要望に應じ昭和五年三月市会の議決を経て給水人口七〇、〇〇〇人の拡張を計画し、六六万円を以て工事を執行昭和十年旧市全域に亘る水道施設を完成した。

#### 第三期工事

加納地区の戦前復興の急速な進歩に應じ昭和二十四年五月市会の議決を経て給水人口二二、〇〇〇人の拡張を計画し、昭和二十四年五月増補改良事業の補助認可を得て同年九月一部着工後正式第三期工事として昭和二十五年四月月給費三、五〇〇万円を以て本格的工事を進め昭和二十七年三月その工を竣つた。

#### 第四期工事

観光の枢要地区長良及戦後集団住宅地区として急速に発展した加納地区に對し拡張を計画し、昭和二十五年三月市会議決を昭和二十六年七月主務者の認可を得て二年連続事業として、工費一四、〇〇〇千円を以て昭和二十七年三月着工した。計画給水人口二五、〇〇〇人一日最大給水量二五〇立とし、水源は長良川右岸に求め浅井を以て伏流水を取水し、雄嶺山上配水池に揚水後自然流下により配水する計画を以て目下進行中である。

#### 現 況

当初計画は一人平均一一立、最大一六・五立、計画給水人口二五、〇〇〇人と計画されたが、近年文化の進展衛生思想の発達に伴つて使用水量は甚しく増加して来たので、一人一日給水量平均一七〇立、最大二五〇立とし、給水人口旧市内及加納一〇〇、〇〇〇人、長良及加納山地区二五、〇〇〇人計二二五、〇〇〇人と修正した。

#### 第一期工事

水質不良で飲料水に不便多い市の南半部に対し給水量一人一日一一立、人口五五、〇〇〇人を対象として計画し、昭和二年三月市会の議決を以て同年十月主務者の認可を得て、工費八二万円を以て着手昭和四年十二月通水を開始し昭和九年三月その工を竣つた。

### 所 見

本水道水源が市街に接続し、且豊富なる水源に恵まれて居るが、配水池の施設なくポンプ直送式であるため、送水費の増加を来たし経管上不利あるは免れない。

水源は又公園に接続し殆ど一帯化して居り、各施設も之にマッチし美観を呈していることは計画の参考に資する処多し。

第二期工事たる長良川右岸水源地に於ける敷地又六〇〇坪位あり、ポンプ室、発電室其他洋風近代建築にして、構内に噴水植樹をなし美化しあること亦参考の資となつた。

量水器修理工場を有することも将来の参考となつた。

第一期至第三期工事に至る建設費は物価指数の相違しおるも第四期工事費が一四、〇〇〇、〇〇〇円は人口一人当建設費が二八、五〇〇円に當ること、富士市綜合水道が三〇、〇〇〇

## 特集

## 議会常任委員会 行政視察報告

円程度を要するも立地条件に於て差異あるを以て止むを得ざるものにあらざるか。

### 農産委員会

視察月日 三月二十二、二十三日  
委員 時田、三浦、八木、飯塚  
課長 高沢  
視察地 愛知県安城市、知多郡河和町、同須賀町、瀧美郡伊良湖村

#### 視察概要

別紙調査書の通り田園都市で水田を主体とした地区に明治用水の開通と共に商業が発達した。即ち日本デパートと言われる都市だけに、農業経営は米、麦、蔬菜に乳牛、鶏を取り入れた畜産地帯である。

#### 安城市調査

市行政として常任委員会は七委員会として、一委員会八名、課は十三課あり、助役一名、職員総数は一四

#### 〇八名である。

予算については別冊の通りであるが産業経済費の内訳は次の通りである。

産業経済費 九、八五五、〇三〇円  
農道費 一、五〇〇、〇〇〇円  
(土木課) 農道設置工事費  
2 土地改良費 一、〇七一、一〇〇円  
(土木課) 土地改良区の助成金  
3 農業委員会費 一、四九四、五八〇円  
(農務課) 農務課職員兼務  
4 農業改良振興費 三、九八九、四〇〇円  
(農務課)

1 農業改良振興費の内訳  
1 主要食糧増産奨励費 一、二九四、二五〇円  
2 円芸振興費 一八五、九〇〇円  
3 畜産振興費 一、〇〇六、八〇〇円  
4 農業改良普及費 八三八、四〇〇円  
5 供米対策費 五九、七〇〇円  
6 諸 費 六〇四、三五〇円  
諸費の内訳  
1 農業協同組合補助

2 養蚕組合補助 一〇、〇〇〇円  
3 食糧事務所補助 一五、〇〇〇円  
4 共済組合補助 一〇〇、〇〇〇円  
5 農業振興事業補助 三四九、六〇〇円  
6 原種補助 五、六〇〇円  
7 商工観光費 一、七九九、四五〇円  
農林行政については、農業委員会は富士市同様農務課内に事務局を置いて行い、普及員も農務課に在るは連絡上良いと思ふ。供出割当関係は市は部落割当し個人割当は部落で行うが異なつて居るが、事務的に市当局で個人割当を行ふべきであると思ふ。

知多郡青果連合会の太田川支所で状況調査を行つたに、青果連の主なる取扱品目は玉葱を第一として、大根、馬鈴薯、甘藍、フキ、インゲン、白菜等で売上げ金額は約三億円であつて、市場の割も二分で運営して居る。玉葱は畑地に早生(愛知白)を栽培し、中生晩生種を水田(湿地)の裏作として、四尺植床、二尺通路として、四尺床を三本畝で大きく反転起しにして通路の土を其の上へ上げてその土のみを砕き、二尺五寸横畦に二条植になつて居る。通路には湿地のためたえず水がある状態に候と土質にめぐまれて居るとは言へ、よく玉葱がこの湿地に栽培されるかと思ふ位であるので、富士市内の湿地の活用もこれを参考として大いに研究しなければならぬので、本年冬からぜひ展示園を設置して研究してみたい。

渥美郡伊良湖村  
県立暖地田芸試験場調査

渥美郡一帯は暖地のため、夏播甘藍、絹莖豌豆、早生玉葱をはじめ花卉類の特産地にして、戦後急速に発展し特に花卉類は暖地のため無加温の温室田芸が発達して、昭和二十六年に郡立で現在地に暖地田芸試験地を、農業改良普及員が中心となつて設置されたのである。それが県の認めるところとなり、昭和二十七年には早くも県立移管となり現在試験場となつたもので、地元は土地と事務所を無償提供して充足した。技術者三名が駐在して運営費のみで二十九年度一五六万円である。この内雇入費五〇万円を支出して年中雇入(常雇を含む)を入れて運営し、試験場の生産物見込収入を三九万円あるので正味県費は一七万円である。富士市の農業試験地の今後の研究と運営方法如何によつては、有利な運営も出来一年も早く県立移管に推進して行く事が必要である。

### 衛生委員会

視察月日 三月三十一日、四月一日  
委員 長谷川、田辺、齋藤、羽切  
課長 滝川  
視察地 伊豆通信病院、長岡町立病院

#### 視察概要

本病院は昭和十九年東京第一陸軍病院として設立されたものであるが、その後日本医療団大蔵省に移管され、更に昭和二十二年七月一日東京通信局に買収され現在に至つたものである。創設当初は戦時中のものであつたから、粗末な建物であつたがその後改修した点は視察事項中重視すべき点であつた。

予算経理により一般経費は病院の収入により支弁し新設工事費については町一般会計からの繰入金を以てする。

総括的事項  
敷地が狭いため建物の配置には相当無理が感じられるが、小規模ながらもよく整備されている。  
職員は夫々温情を以て患者に接している点が見受けられる。  
町で国民健康保険を実施しているの町内患者の利用度は高い。

創 設  
昭和二十五年十二月十七日  
該療科目  
内科、小児科、外科、産婦人科、肛門科、性病科、理学療法科がある。

職員数  
医師六、薬剤師二、X線技師一、看護婦一九、運転手二、事務員八、其他七 計四五名  
敷地建物床敷  
敷地一、二〇八坪四七、建物七五七坪五五(医師、職員住宅一一九坪含む)  
病床九五床  
経理状況  
予算経理により一般経費は病院の収入により支弁し新設工事費については町一般会計からの繰入金を以てする。

## 市税近況

この、の御協力に對し心から謝意を表します。

同

金岡武夫 富士市議員